

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～外国の方日本に来て驚くニュースとは・・・～

始業式・入学式には満開だった桜が散りましたね。

さて、日本では当たり前のように流れる「桜の開花ニュース」外国の方々は・・・「は？」って思うようです。なんで、木に花が咲いたくらいでニュースになるのか理解できないようです。では、どうぞ・・・

日本では開花予想すらニュースになります。咲いた日は間違いなくトップニュース。それどころか！か月以上かけて桜前線を追うのが日本の風物詩。

戦争に苦しんでいる国やニュースすら見られない国の人々はきっとこう思うはず・・・

「私も、桜の花が咲くのがニュースになる国に住みたかった、生まれたかったと。」と。

日本人に特別に愛されている桜。

でも・・・桜って嫌われる条件を備えているんです。

- ① 花が咲く期間がとても短い！
- ② 虫がつく！
- ③ 枝ぶりがグニャグニャで建築・道具の資材として加工しづらい！

実際ヨーロッパの高校での日本の古典の授業で、桜に関する文章に学生たちは「ポカン」として聞いているのだとか。

「散りゆくさまもまたいとおかし」なんて「意味わかんない！」となります。

確かに僕たちも学校で「をかし」と「あはれ」の意味を「趣がある」と習いましたが、文字だけではわからなくても、花の散る様子や夕焼けに鳴く鳥の声などの情景を思い浮かべると、なんとなくわかりますよね。・・・これが日本人の感性なのです。

手間がかかったっていいじゃない。 欠点はいくつあってもいいじゃない。

咲いている期間が短くてもいいじゃない。

たとえ一瞬でも・・・そこに・・・人を感動させることができる、何かがあるのなら・・・

日本人はそんな桜をこよなく愛してきました。

1年365日のうち10日間ほどしか花の咲かない桜の木を。

誰かの心・ハートに一瞬でも残ることができたら、その人生は何ものにも代えがたい価値のあるものになると思います。

「ニッポンのココロの教科書」ひすい ことろう」（大和書房）より



県高にもたくさんの桜があります。ワシントンからの里帰り桜もあります。そのほかにも多くの木々や校務員さんが植えてくださっているアプローチの花々。緑と花に囲まれて送れている県高生活。そんなところに視点を置いて、思いを馳せるのもいいんじゃないでしょうか。

この通心（信）も桜のように一瞬でも県高生の心（ハート）に残るものになれば、うれしいです。

